

樋口貴広(著)

研究的思考法

想いを伝える技術

評者 建内宏重

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻予防理学療法学講座

本書の著者である樋口氏は、心理学・認知科学領域の第一線で活躍する研究者であるとともに、大学院で多くのセラピストを指導してきた経験をもつ。また、個人的には、私は過去に樋口氏と共著で書籍を執筆した経験があり、その際に、どのような構成、文章にすれば相手(読者)にわかりやすく正確に情報を伝えることができるか、その知識・技術を多く教わった。そのような樋口氏が、「研究領域において実践される作法に沿って、自分の考えを整理し、他者に伝わる形式で表現するための一連の思考プロセス」である研究的思考法をまとめたのが本書である。

私は本書をすべてのセラピスト(およびその卵である学生)にお薦めする。本書には、学術論文を執筆する必要がある人だけではなく、文献を速く読み効率的に情報収集をしたい人、学会や勉強会でのスライド作成やプレゼンテーションが上手になりたい人、学生や後輩のレポート・論文の指導をしなければならない人など、言わばあらゆるセラピストが経験するであろう活動に関するコツが、随所に惜しげもなく散りばめられているからである。

本書は全6章からなり、研究的思考法の解説から始まって、パラグラフ・ライティングおよびリーディングの説明とその実践、研究法入門(因果関係の推定や平均値の差の検定)、パラグラフの概念を活用したプレゼンテーション(スライド作成やスピーチ)、論文執筆と続く。パラグラフとは文章における「段落」のことであり、パラグラフ・ライティングとは文章を書くための基本的作法の1つである。ただし、本書ではただ単により文章の書き方を指導しているわけではない。パラグラフの概念を活用して自分の意見や思考を整理し、人に言葉や文章、スライドなどでわかりやすく伝える技術を、新たな切り口から明示している。特にプレゼンテーションの章は圧巻で、パラグラフの概念を応用し

て、1枚のスライドのなか、そしてプレゼンテーション全体の構成をどのようにすれば、重要なポイントをアピールできかつわかりやすい発表になるか、目から鱗が落ちるような技術を教えてもらった。さらに、口頭での説明とスライドの文字との関係やパワーポイントのアニメーション機能に関する注意、スライドの情報量、質疑応答へのパラグラフの概念の活用など、細かな点についても、他の教科書では見かけない重要な指摘がなされている。

本書を読み進めるうち、新しい論文を早く書きたい、次の講演のスライドを刷新したい、そういう気持ちが高まった。本書は、臨床家、研究者のいかに問わず、知的活動を行うすべての人にお薦めできる一冊である。



A5判・228頁

定価：本体3,000円＋税

三輪書店刊、2019年